

18歳～49歳のBYOD(Bring Your Own Device)ユーザー1,200人のスマートフォン選び

“普段使い”も“仕事使い”も

『電池持ち』と『データ保存容量』を最重視

iPhoneユーザーは「ブランド」、Androidユーザーは「スペック」を重視する傾向

昨今、ビジネスパーソンの業務デバイス使用の主流になりつつあるBYOD (*Bring your own device*: 従業員が個人所有の携帯用機器を職場に持ち込み、業務に使用すること)という考え方。単純に自分が欲しいスマホを購入する時と比べて、“普段使いと仕事使いの両立”など、上手なスマホ選びのコツが必要になってきたり・・・これまで以上に何を基準に選択するか迷うユーザーが増えつつある状況ではないでしょうか。

「R25」を運営する株式会社Media ShakersのM1・F1総研®では、スマホをBYODユースしている1,200人(使用OS:iOSとAndroid各600人/18歳～49歳の有職者男女)に対して、最新型スマートフォン4機種(標準サイズの「iPhone6s」と「Xperia Z5 Compact」/大画面サイズの「iPhone6s Plus」と「Xperia Z5 Premium」)に着目し、「普段使い」と「仕事使い」における重視点や魅力点について調査しました。

1 今や多数派!? BYODユーザーのスマホ選び

普段使い(63.8%)も仕事使い(44.9%)も「バッテリー容量」を最重要視。女性は「カメラ」や「データ容量」、「重さ」も顕著に重視。

2 iPhone6s と Xperia Z5 Compact 標準サイズ最新スマホ それぞれの魅力点とは？

iPhone6s(普段使い)は「電池」「データ」「ブランド」が魅力。Xperia Z5 Compactは「電池」の他、「防水・防塵」、「外部メモリ」などの機能も一定の評価。

3 iPhone6s Plus と Xperia Z5 Premium 大画面サイズ最新スマホ それぞれの魅力点とは？

iPhone6s Plusは「電池」「データ」「カメラ」に次いで「ブランド」が魅力(特にiPhoneユーザーが支持)。仕事では「画面サイズ」が高評価。Xperia Z5 Premium(仕事使い)は「カメラ・画面」よりも「メモリ・データ容量」。

4 iPhone6s と Xperia Z5 Compact 標準サイズスマホ スペック提示での購入意向変化

スペック提示後にiPhone、Androidユーザーともに、現使用OSの最新機種の購入意向が上昇。特にAndroidユーザーは「ブランド力」<「端末スペック」。

5 iPhone6s Plus と Xperia Z5 Premium 大画面サイズスマホ スペック提示での購入意向変化

Xperia Z5 Premiumのスペック提示後にiPhone、Androidユーザーともに購入意向上昇。圧倒的なハイスペックは、OSをまたいだ機種変更をおこすポテンシャルあり。

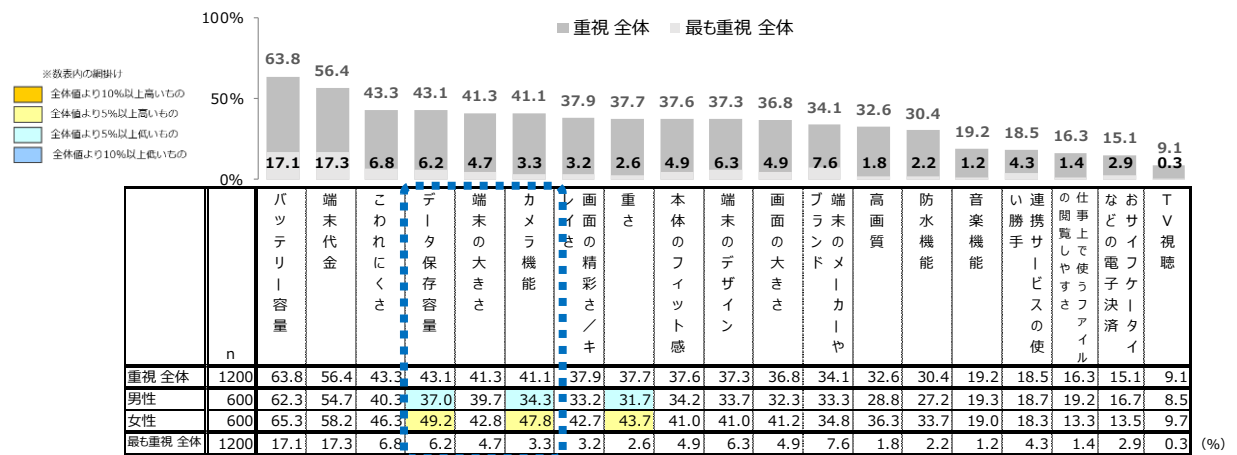
【BYODユーザーのスマートフォン選びの注視点とは？】

1 普段使いでは「バッテリー」(63.8%)と「端末代金」(56.4%)を重視。女性は「カメラ機能」や「データ容量」、「重さ」も顕著に重視。 仕事使いで重要なのは断トツで「バッテリー」(44.9%)。

スマートフォンをBYOD(私的デバイスを業務に活用)使いしているユーザー1,200人に対して、「スマホ購入時に、普段使いの視点で重視すること」について聴取したところ、重視点TOP3は1位「バッテリー容量」(63.8%)、2位に端末代金(56.4%)、3位「こわれにくさ」(43.3%)となった。

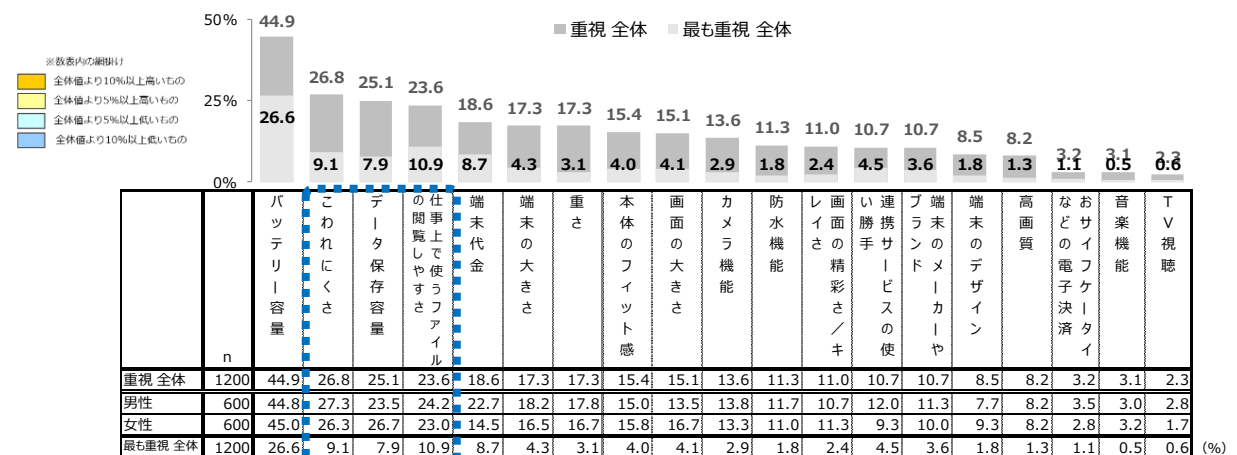
男女別で見ると、「データ保存容量」(49.2%>37.0%)、「カメラ機能」(47.8%>34.3%)、「重さ」(43.7%>31.7%)の3点については、男性よりも女性のほうが重視をしていることがわかる。

【スマホ購入時に「普段使い視点」で重視すること】



次に、「スマホ購入時に、仕事使いの視点で重視すること」について聴取をしたところ、重視点1位は「バッテリー容量」(44.9%)、2位グループには「こわれにくさ」(26.8%)、「データ保存容量」(25.1%)、「ファイル閲覧のしやすさ」(23.6%)が僅差で続いた。普段使い視点とは異なる機能への評価から、外出先でのファイルやメールの閲覧といった用途がみえてきた。

【スマホ購入時に「仕事使い視点」で重視すること】



【標準サイズ端末の魅力:iPhone6sの場合】

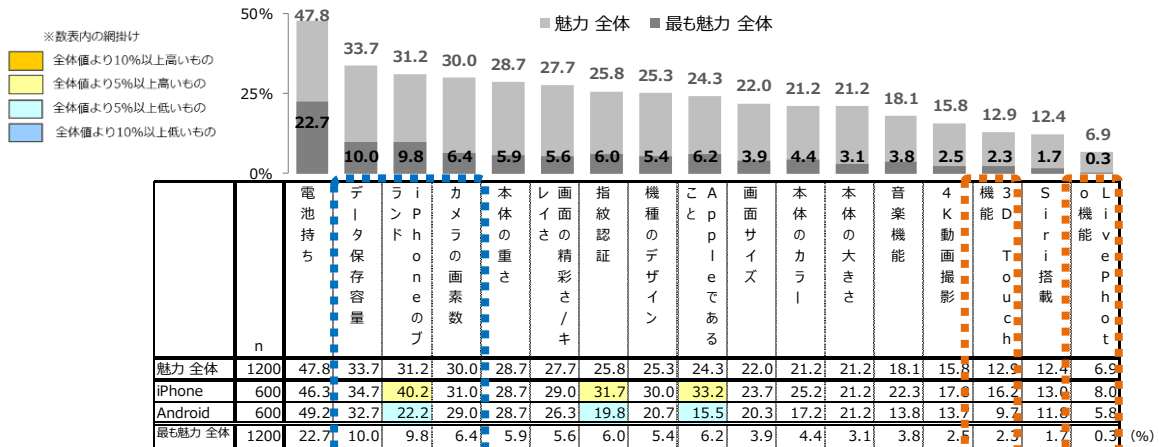
2-①

普段使いでは「電池」、「データ保存容量」に次いで「iPhoneのブランド」が魅力。仕事使いでは「指紋認証」や「モビリティ(本体重量・大きさ)」などの基本機能が評価され、「iPhone6s」独自の機能は下位に留まる傾向に。

スマートフォンをBYOD使いしている1,200人に対して「iPhone6sの普段使いの魅力点」について聴取したところ、1位は「電池持ち」(47.8%)で、突出して高い結果となった。2位以降は僅差で「データ保存容量」(33.7%)、「iPhoneのブランド」(31.2%)、「カメラの画素数」(30.0%)が続いた。また、iPhoneユーザーには「iPhoneのブランド」や「メーカーがAppleであること」も大きな魅力となっていることがわかる。

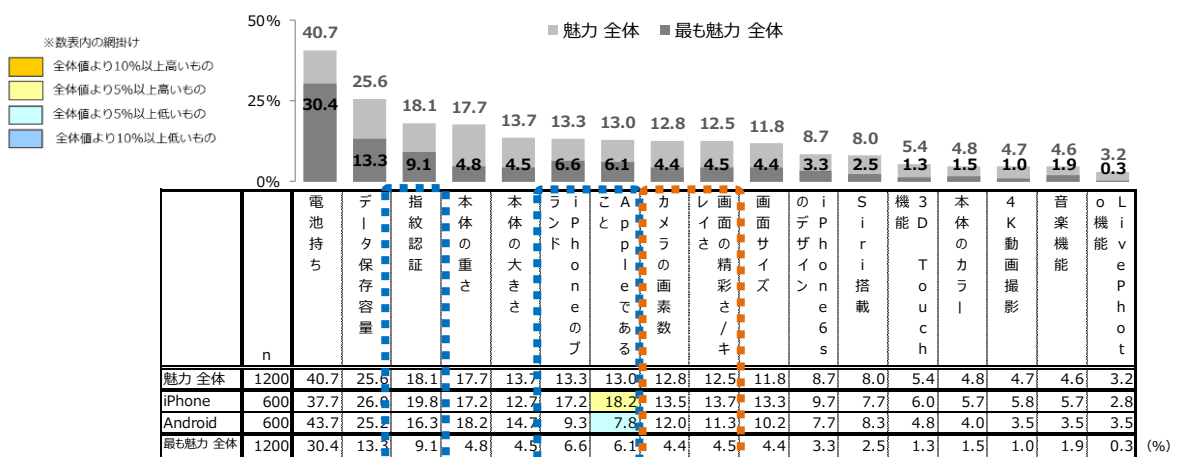
「3D Touch機能」や「Livephoto機能」など、iPhone6sから追加となった独自機能については、まだそれほど魅力点として評価されていない様子が見える。

【iPhone6s 普段使いの魅力点】



次に「iPhone6sの仕事使いの魅力点」について聴取をしたところ、1位は電池持ち(40.7%)で特に高い。2位はデータ保存容量(25.6%)。3位に「指紋認証」(18.1%)となり、普段使いとは異なる評価がされていることがわかる。特にiPhoneユーザーは「メーカーがAppleであること」も魅力点として挙げており、「カメラの画素数」や「画面の精彩さ」など“写真や動画の閲覧”に紐づく機能は、仕事使いにおいては比較的下位に位置づけられている。

【iPhone6s 仕事使いの魅力点】



【標準サイズ端末の魅力:Xperia Z5 Compactの場合】

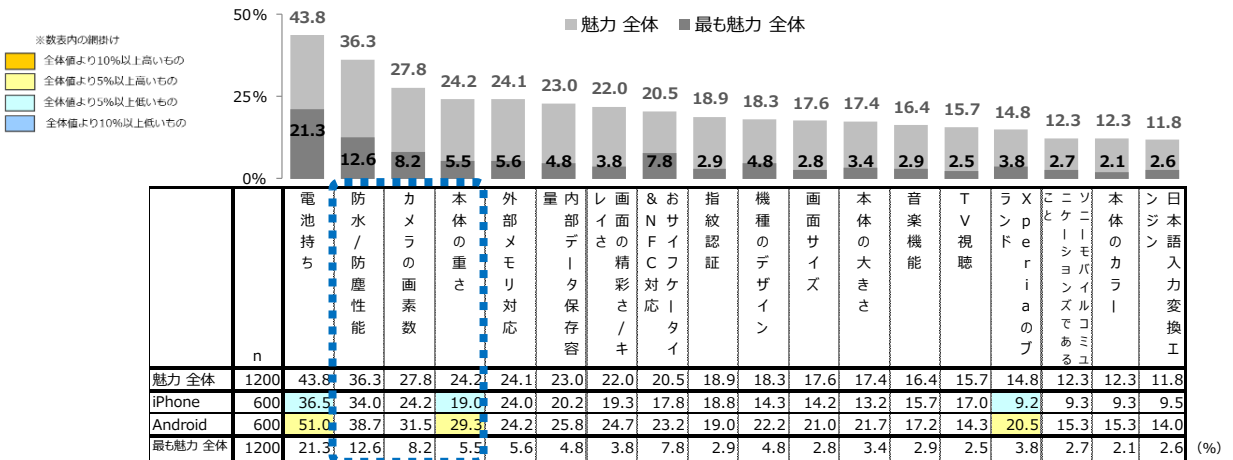
2-②

普段使い、仕事使いともに「電池持ち」が1位だが、「防水・防塵」、「外部メモリ対応」、「おサイフケータイ」など、iPhoneにはない**独自機能はやはり魅力**と言える。iPhoneユーザーには「外部メモリ対応」は仕事使いで特に魅力。

今度はスマートフォンをBYOD使いしている1,200人に「Xperia Z5 Compactの普段使いの魅力点」について聴取した。その結果、1位は「電池持ち」(43.8%)、2位に「防水・防塵」(36.3%)、3位に「カメラの画素数」(27.8%)となった。また、その他にも“最も魅力的な点(SA回答)”では、「外部メモリ対応」や「おサイフケータイ」など、iPhoneにはない独自機能も一定の評価をされていることがわかる。

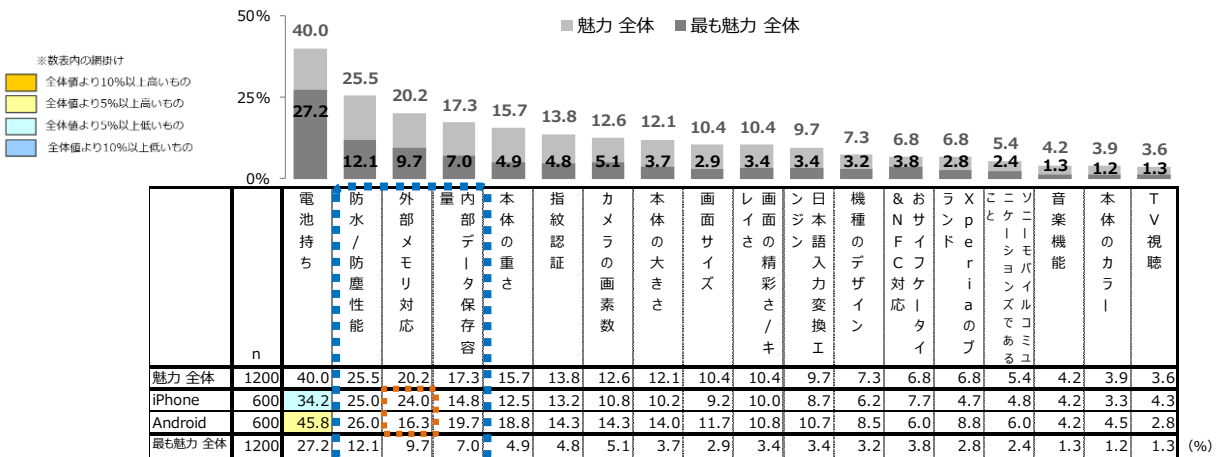
現使用のスマホ(OS)別で見ると(iPhoneユーザー600人、Androidユーザー600人)、ほとんどの項目においてAndroidユーザーからの評価が高い。Androidユーザーは特に「電池」、「重さ」、「Xperiaブランド」を評価していることが見てとれる。

【Xperia Z5 Compact普段使いの魅力点】



次に「Xperia Z5 Compactの仕事使いの魅力点」を見ると、1位は「電池持ち」(40.0%)となり、特にこの傾向はAndroidユーザーにおいて顕著であることがわかる。2位は「防水・防塵」(25.5%)、3位は「外部メモリ対応」(20.2%)となった。ほとんどの項目においてAndroidユーザーからの評価が高いが、「外部メモリ対応」はiPhoneユーザーからの評価がAndroidユーザーよりも高い結果となったことから、iPhoneが対応していない「外部メモリ」への仕事使いでのニーズが高いことがうかがえる。

【Xperia Z5 Compact仕事使いの魅力点】



【大画面サイズ端末の魅力:iPhone6s Plusの場合】

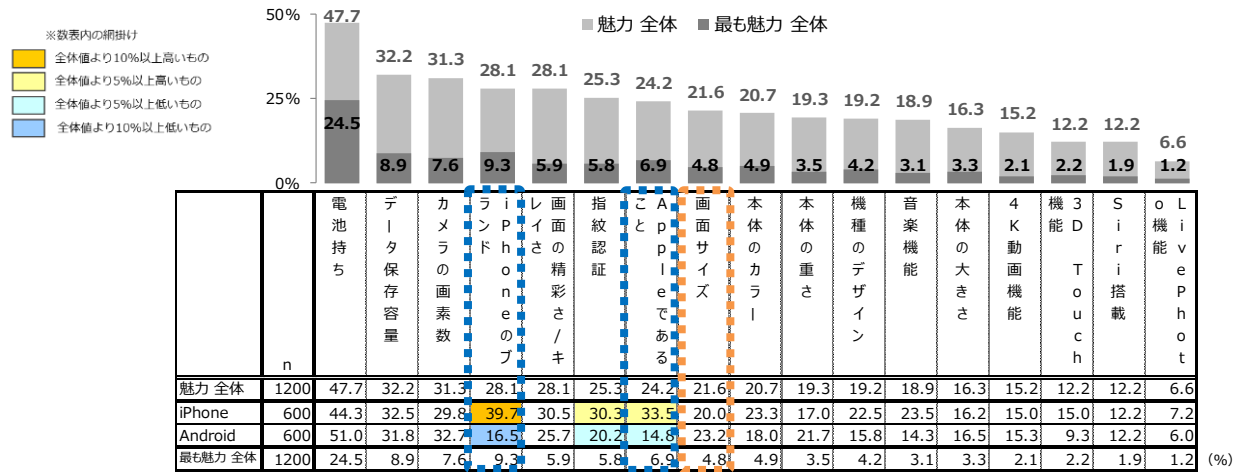
3-①

普段使いでは「電池」、「データ保存容量」、「カメラ画素数」に次いで「iPhoneブランド」。ただしAndroidユーザーにはそのブランド力は届いていない。仕事使いでは「画面サイズ」が重宝される。

今度は、大画面サイズ(5.5インチ前後)のスマートフォン「iPhone6s Plus」のスペックを提示して、その魅力点について聴取をした。普段使いにおける魅力点の1位は「電池持ち」(47.7%)で、2位にはデータ保存容量(32.2%)がランクイン。以下、「カメラの画素数」、「iPhoneのブランド」と続いており、標準画面サイズの「iPhone6s」の魅力点に関する調査結果と傾向が似ている。

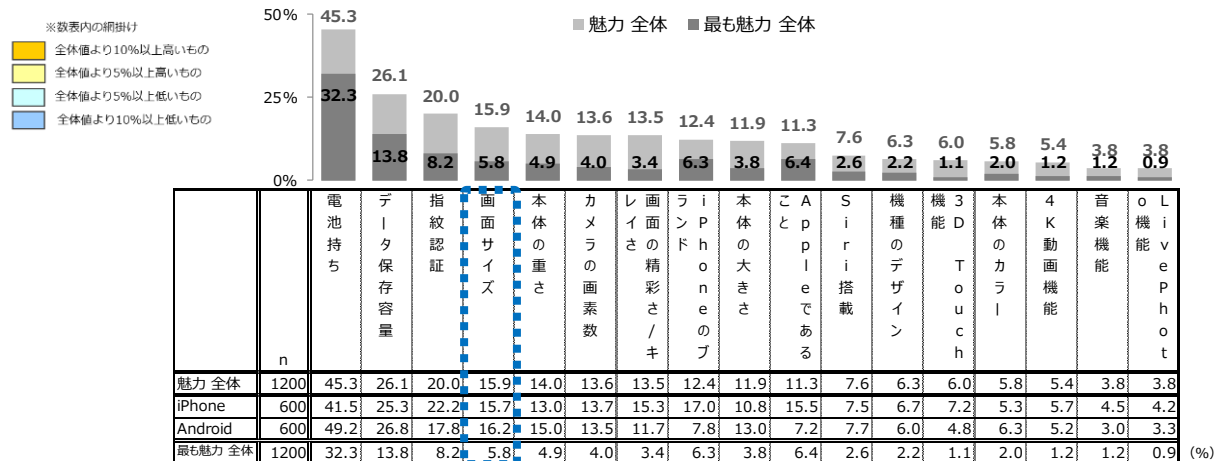
また、iPhoneユーザーにとっては、「iPhoneブランド」や「Appleブランド」が魅力点の1つとなっているが、Androidユーザーには、「iPhone」や「Apple」のブランドパワーは届いていないものと考えられる。また、大画面サイズにも関わらず普段使いでは「画面サイズ」はそこまで魅力として捉えられていなかった。

【iPhone6s Plus 普段使いの魅力点】



次に「iPhone6s Plusの仕事使いの魅力点」について聴取したところ、1位は「電池持ち」(45.3%)、2位は「データ保存容量」(26.1%)、3位は「指紋認証」(20.0%)となった。普段使いと比べて特徴的なのは、4位の「画面サイズ」(15.9%)で、大画面サイズのiPhone6s Plusは、ビジネスユースにおけるデータ確認やwebページ閲覧などの際に重宝されていることがうかがえる。

【iPhone6s Plus 仕事使いの魅力点】



【大型スマホ: Xperia Z5 Premiumの魅力点】

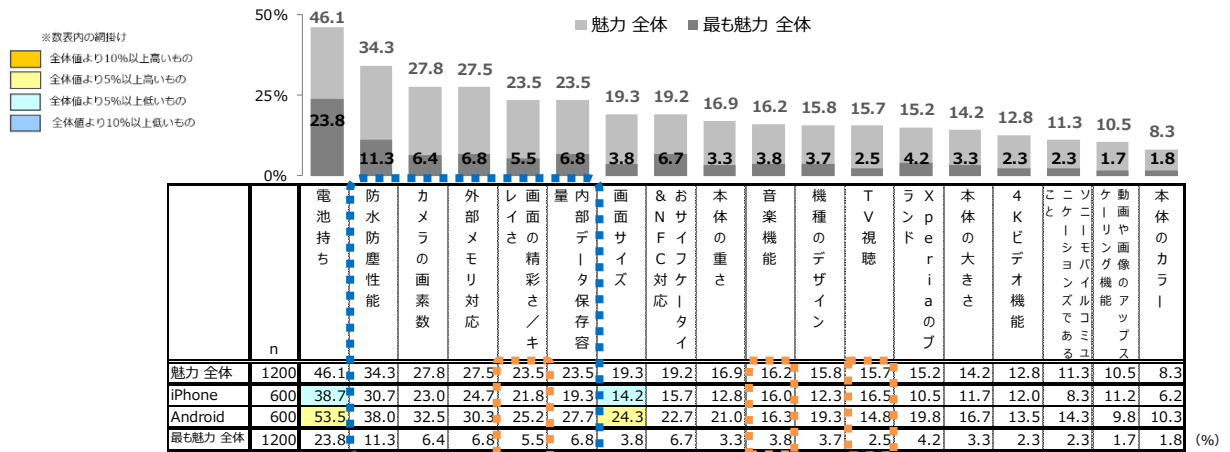
3-②

普段も仕事も「電池持ち」、「防水防塵」、「外部メモリ対応」、「カメラ画素数」、「画面の精彩さ」、「データ保存容量」が上位に。BYODユーザーが求める機能をバランス良く搭載。

今回は、大画面サイズ(5.5インチ前後)のスマートフォン「Xperia Z5 Premium」のスペックを提示して魅力点を聴取した。“普段使い”における魅力点の1位は「電池持ち」(46.1%)。2位～5位に「防水・防塵」、「カメラの画素数」、「外部メモリ対応」、「画面の精彩さ」というiPhone6s Plusが対応していない(またはスペックが高い)機能がランクインした。

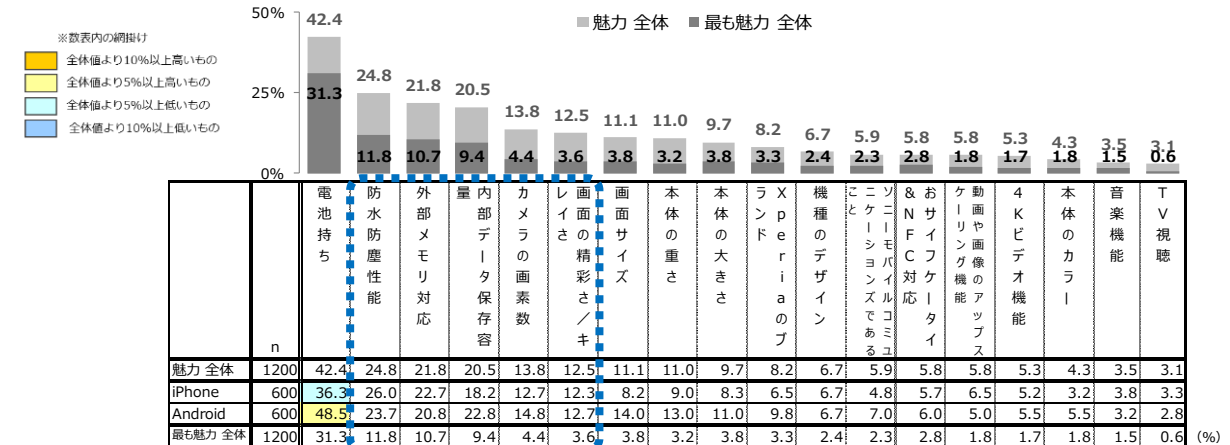
全般に、各項目に対するAndroidユーザーからの評価は高く、iPhoneユーザーからの評価はやや低めとなっているが、そんな中でも「画面の精彩さ」、「音楽機能」、「TV視聴」などは両OSのユーザーから同様に支持されていることがうかがえる(全体スコア15%以上、且つOS別ユーザースコアの差分が5%以内)。

【Xperia Z5 Premium 普段使いの魅力点】



次に、同端末の「仕事使いでの魅力点」について聴取したところ1位は「バッテリー容量」(42.4%)で、2位は「防水・防塵」(24.8%)、3位に「外部メモリ対応」(21.8%)と続く。2位～6位の項目の順序に変動はあるものの、普段使いで評価が高かった項目が、仕事使い視点でも評価を集める結果となった。双方視点で上位項目が一致したことより、オン・オフ両方での活用を前提とした際に、ユーザーが求めているスペックに近いモデルだといえるのではないだろうか。

【Xperia Z5 Premium 仕事使いの魅力点】



【標準サイズスマホ:スペック提示による購入意向変化】

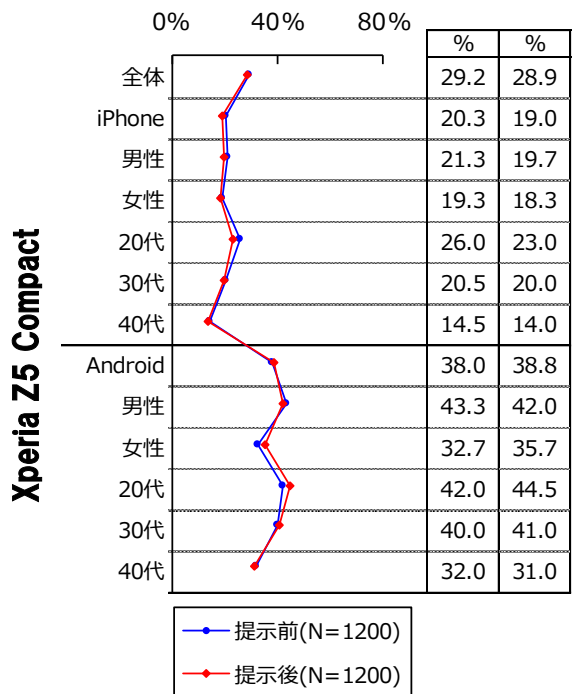
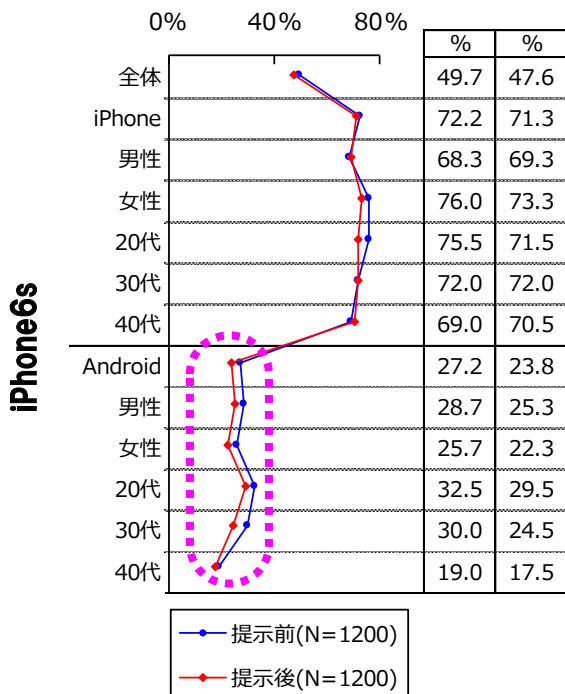
4 スペック提示後にはiPhone、Androidユーザーともに「現使用OSの最新機種への購入意向」が上昇。 Androidユーザーは、スペック提示後に「iPhone6sの購入意向」がやや低下。 重視するのは「ブランド」<「端末スペック」という傾向。

BYODユーザーにおける「iPhone6s」と「Xperia Z5 Compact」に関する評価を測定するために、「それぞれの機種のスペックを提示する前後での購入意向」について聴取した。その結果、スペック提示後にはiPhoneユーザー（600人）、Androidユーザー（600人）ともに“現在使用OSの最新機種に関して、スペックに関わらず購入意向が上昇する”傾向が見てとれた。

なお、Androidユーザーに関してはiPhone6sのスペック提示後、iPhone6sの購入意向がやや低下していることがうかがえる。これはAndroidユーザーがiPhone6sの魅力点について「iPhoneブランド」をさほど評価していなかったため（3項を参照）と考えられ、Androidユーザーは私用・仕事用を兼ねるデバイスとして、純粋にスマホのスペックを重視・評価する傾向があることがうかがえる。

【iPhone6s & Xperia Z5 Compactのスペック提示前・後の購入意向】

※「購入したい」「やや購入したい」のTOP2合計値の比較



【大画面サイズスマホ:スペック提示による購入意向変化】

スペックを理解することで、iPhoneユーザーはiPhone6s Plusとのエンゲージが高まる。

5

Xperia Z5 Premiumのスペック提示後には両OSユーザーともに購入意向が上昇。

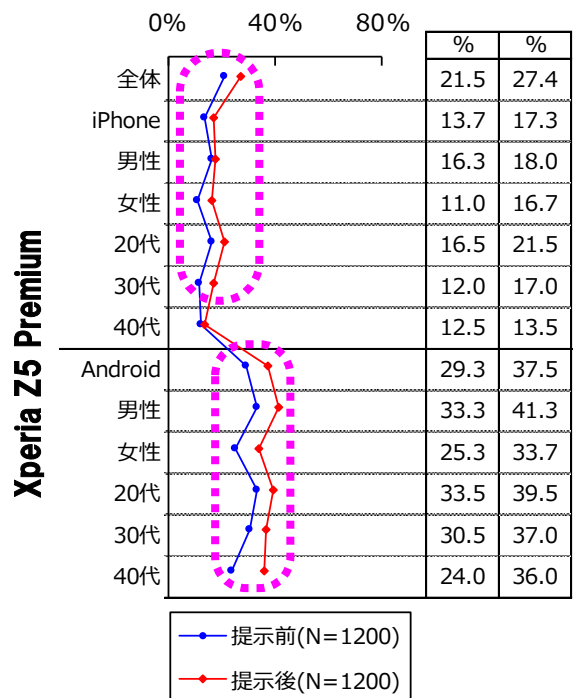
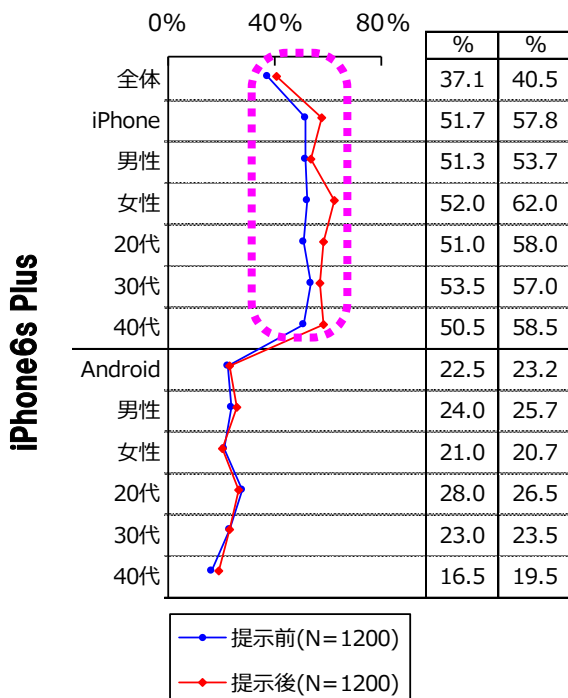
Xperia Z5 Premiumに存在するOS乗り換えを促すポテンシャル。

「iPhone6s Plus」と「Xperia Z5 Premium」の2機種について、「各機種の詳細スペックを提示する前の購入意向」と「詳細スペック提示後の購入意向」を聴取し、その変化を分析した。その結果、iPhoneユーザー(600人)におけるiPhone6s Plusの購入意向は、スペック提示後に上昇しており、男女別・年齢別で見ても同様の結果となっていることがわかる。スペックを理解することで、iPhoneユーザーはiPhone6s Plusとのエンゲージが高まることがわかる。

一方、「Xperia Z5 Premium」は、iPhoneユーザー、Androidユーザー両方ともに購入意向が上昇している。スペックを理解することで、Androidユーザーとのエンゲージメント強化はもとより、“ブランド重視のiPhoneユーザー”がOSを乗り換えてまで購入したくなるようなポテンシャルを秘めていると考えられる。

【iPhone6s plus & Xperia Z5 Premiumのスペック提示前・後の購入意向】

※「購入したい」「やや購入したい」のTOP2合計値の比較



調査概要

- 調査手法: インターネット調査
- 調査機関: 楽天リサーチ株式会社
- 調査地域: 関東1都3県(東京/神奈川/千葉/埼玉)
関西2府2県(大阪/兵庫/京都/奈良)
中部3県(愛知/岐阜/三重)
- 実施日時: 2015年 11月2日(月)~11月4日(水)
- 調査対象: 18歳~49歳の男女
携帯電話をBYODユース(私用デバイスを業務に活用)する、iOSまたはAndroid端末の使用者
- 対象者数: 1,200ss

	20代以下	30代	40代
現iphone(iOS)ユーザー	200	200	200
現Androidユーザー	200	200	200